

となりのムスリム

～食べたらずだち！ 多文化共生プロジェクト～
はるのゼミ2年オールスターズ

「ありがたいの交換。」

中間報告会

2025年12月22日

用語の説明

ムスリムとは？

- ・イスラム教を信仰している人たちのこと

ハラール認証マークとは？

- ・宗教上食べられないものが含まれていない
- ・製造過程などの基準がクリアされていることを示すマーク



目次（補足）

1. 本企画の目的
2. 助成金の意義
3. 実施して分かった課題
4. アンケートから得られたこと
5. 本企画で得た学び
6. 自分たちが今後行っていくこと
7. 「ありがたいの交換。」について

1. 目的

- ・ 「ムスリム」について理解してもらうこと
- ・ 食を通じて関わり、対話ができるようにすること
- ・ 本企画を通し、地域における多文化共生の一步を作ること

2. 助成金の意義

- 事前準備や情報収集に時間を使えた
- 「食」に関わる企画の実施ができた
- 参加の壁を低くすることができた

3. 実施して分かった課題

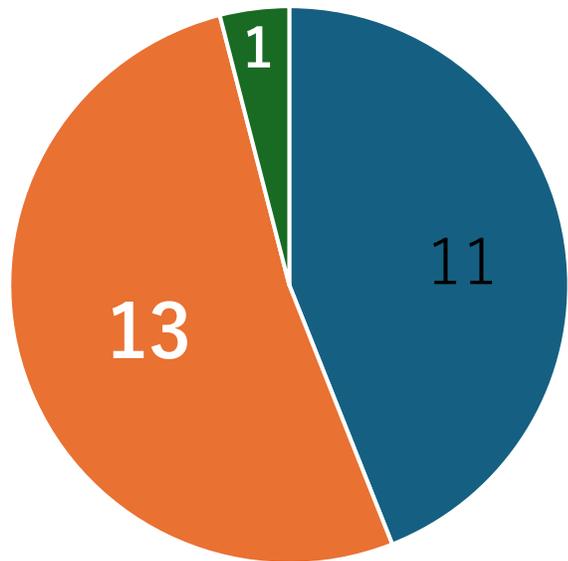
< 食材の調達 >

- ① 豊平区にハラール認証マークの食材が
売っている場所が少ない
- ② 認証マーク以外の食材で食べられるものが
わからない

4. 考察 アンケートで得られたこと

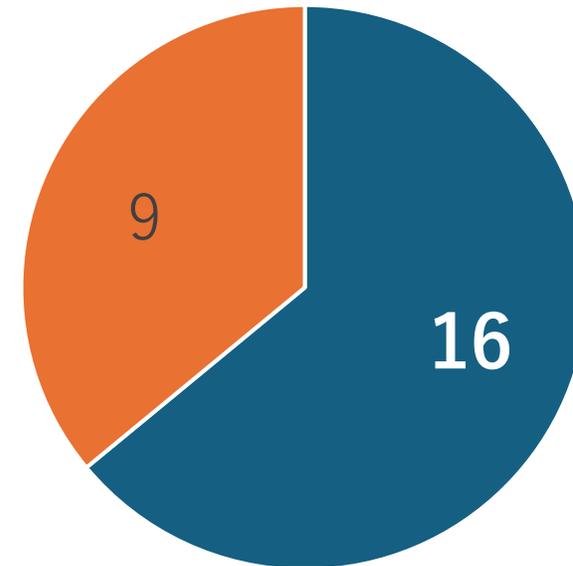
共生のための一歩として「ムスリム」について知ってもらえたか？

ムスリムについての理解度



■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない

ハラールについての理解度



■ とても深められた ■ 深められた

4. 考察 アンケートで得られたこと

「ムスリムについて」

知ってもらおうことを目的としていたが

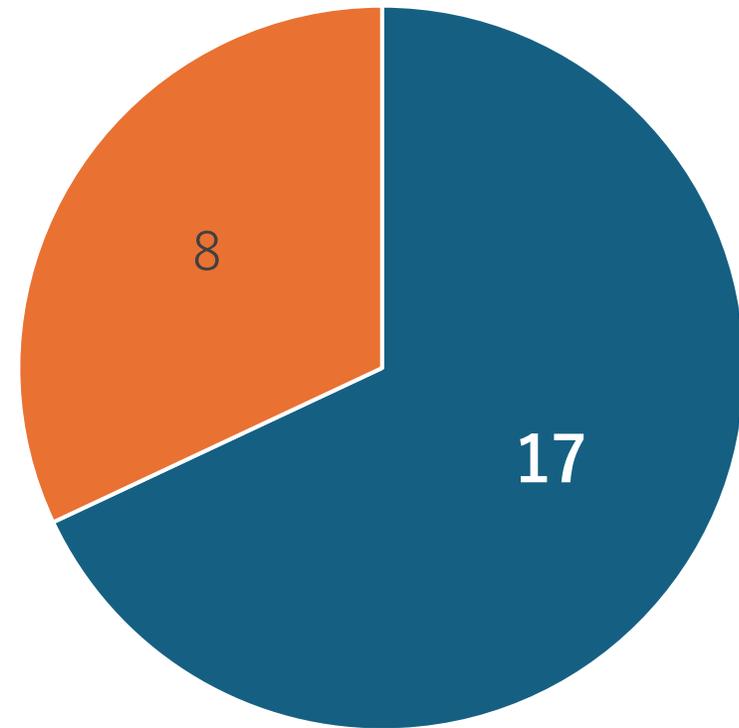
手段として使用した「ハラールフード」

への理解が特に深まったことが分かった

4. 考察 アンケートで得られたこと

今回のような企画は、
すべての人にとって
意義があった

満足度



■とても満足した ■満足した

5. 今回の活動で得られた学び

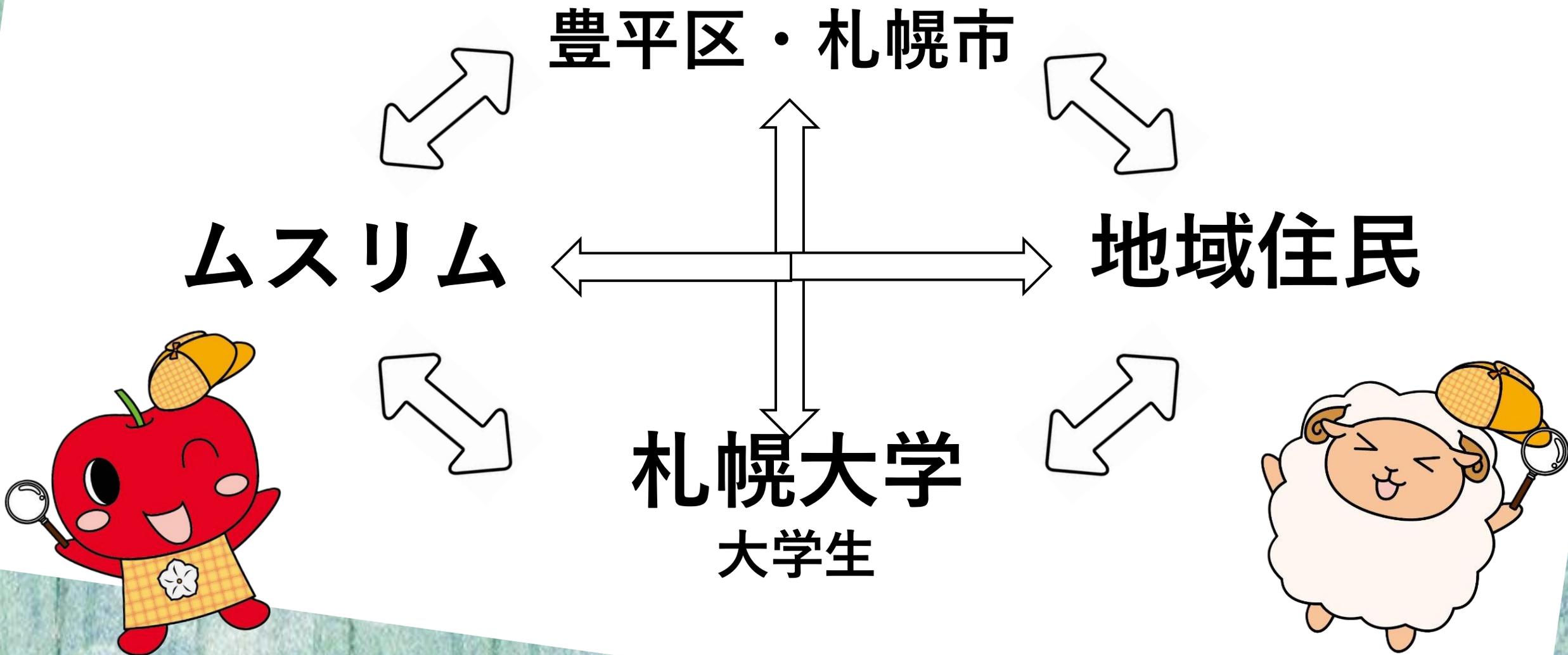
集団としてではなく
個人として見ること

理解をする、寄り添うことが
多文化共生に必要不可欠

6. 自分たちが今後行っていくこと

「知る機会」 ・ 「関わる機会」 を
作り続けること

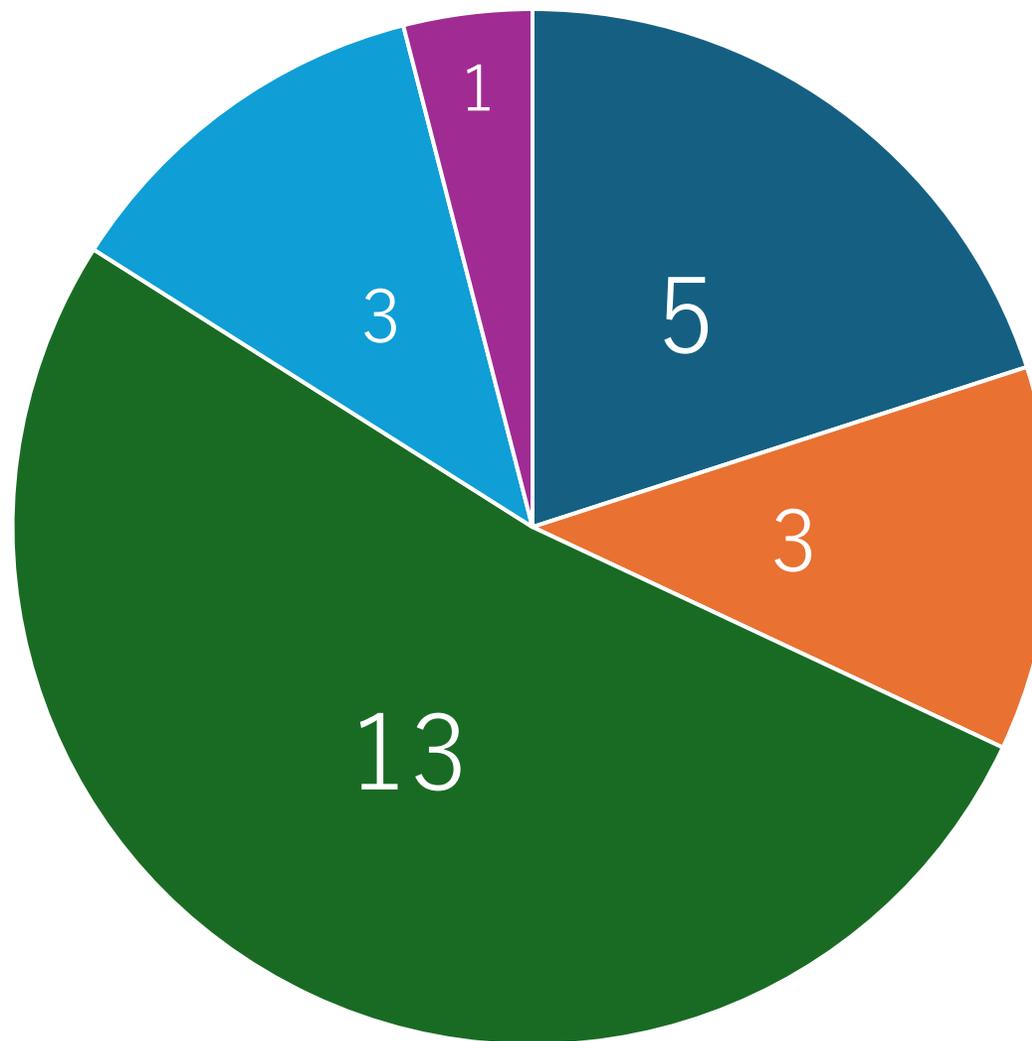
7. 「ありがとう」の交換！



補足資料

アンケート結果

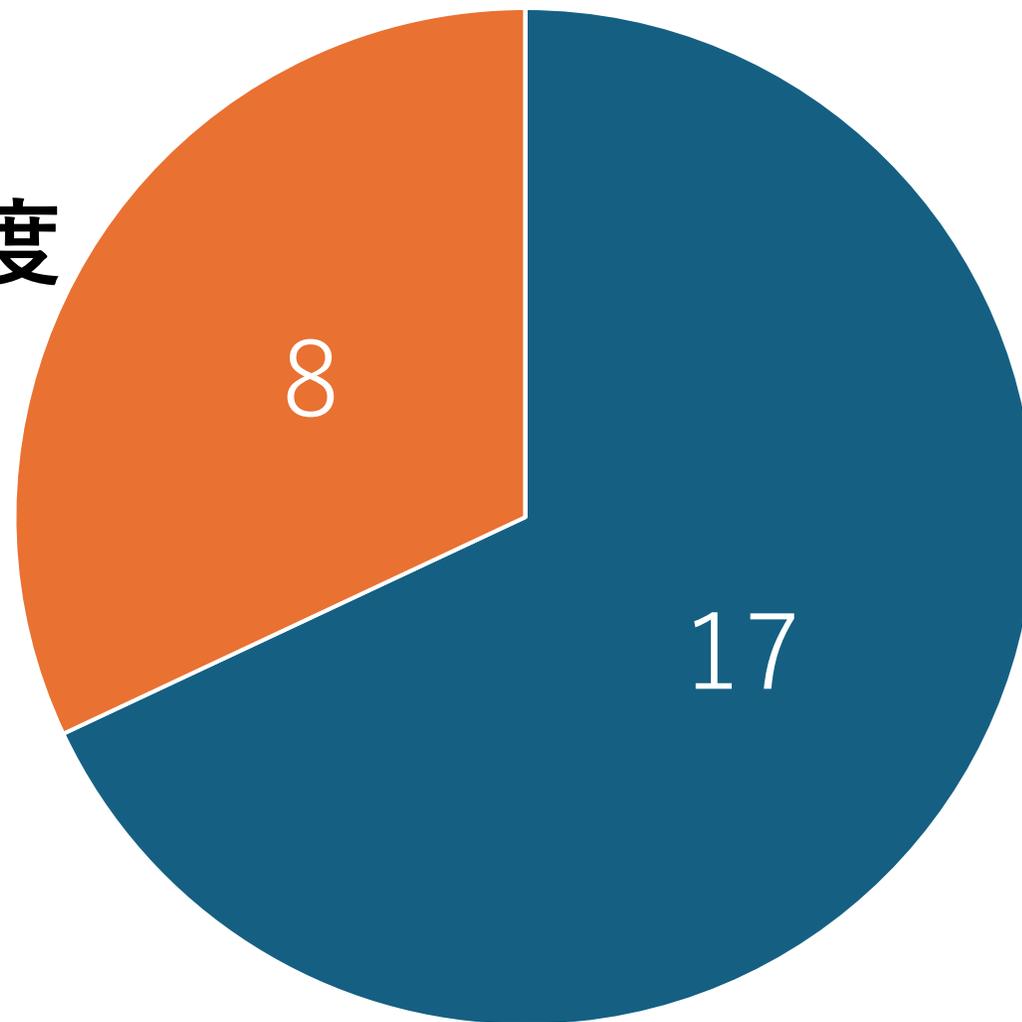
参加者年代



■ 10~20代 ■ 30~40代 ■ 50~60代 ■ 70代以上 ■ 無記入

アンケート結果

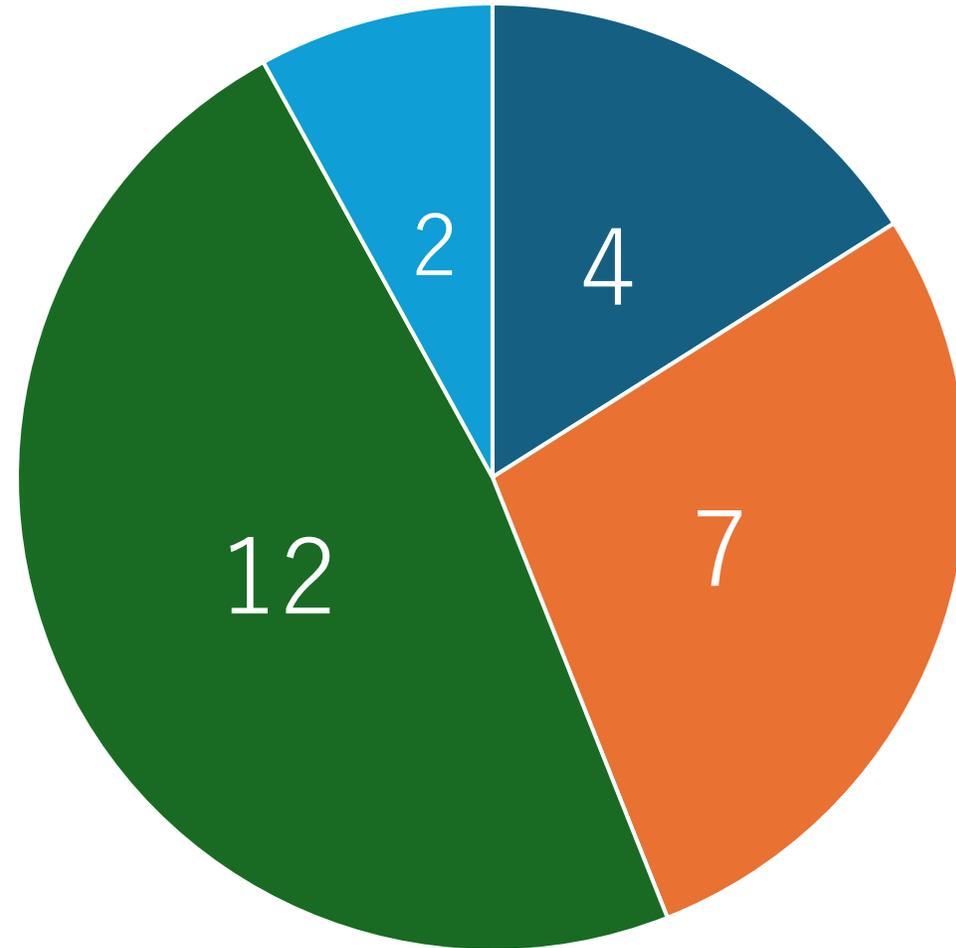
イベント全体の満足度



■ とても満足した ■ 満足した ■ どちらともいえない ■ あまり満足しなかった ■ 満足しなかった

アンケート結果

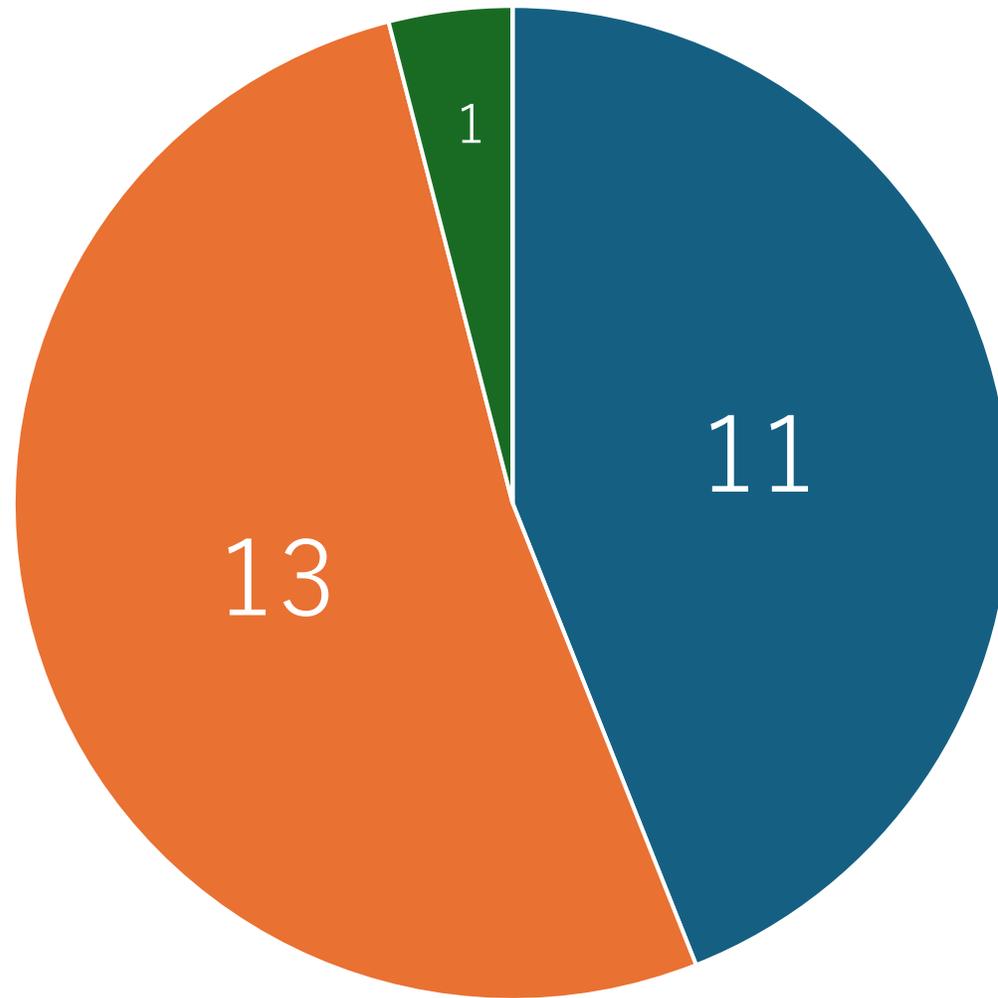
ムスリムについて
知っていたか



■ よく知っていた ■ 少し知っていた ■ あまり知らなかった ■ まったく知らなかった

アンケート結果

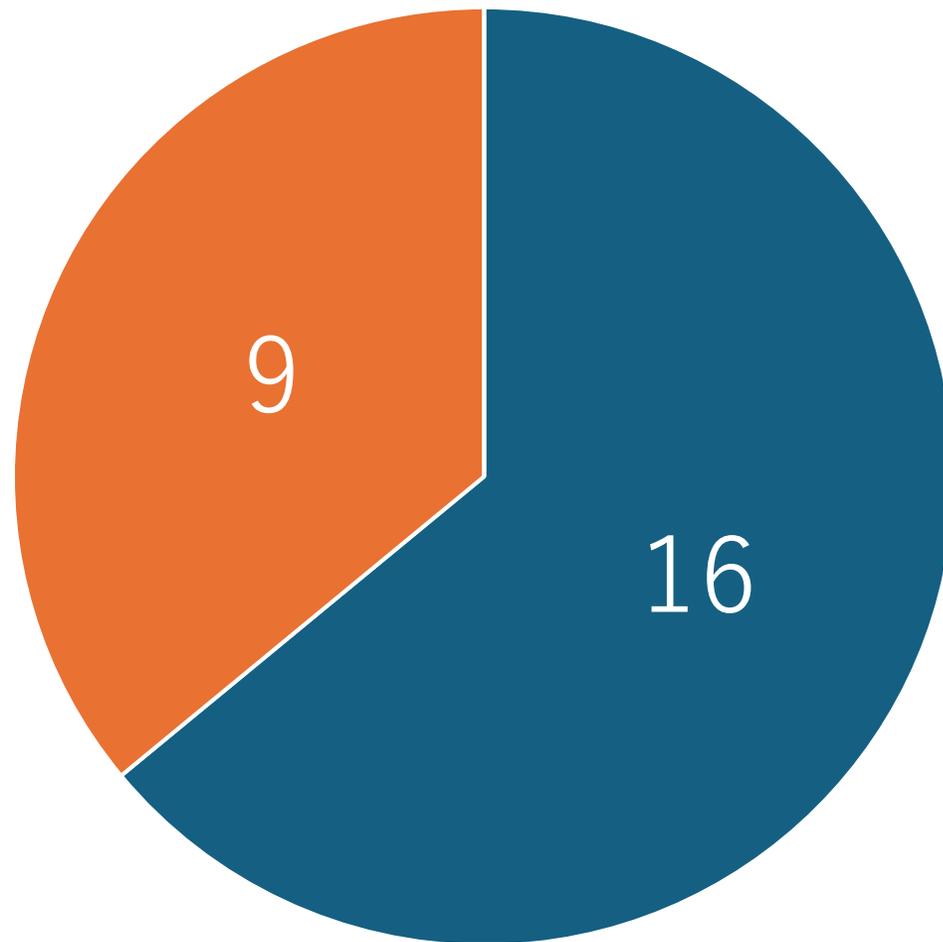
イスラームやムスリムの文化についての理解が深まったか



■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない

アンケート結果

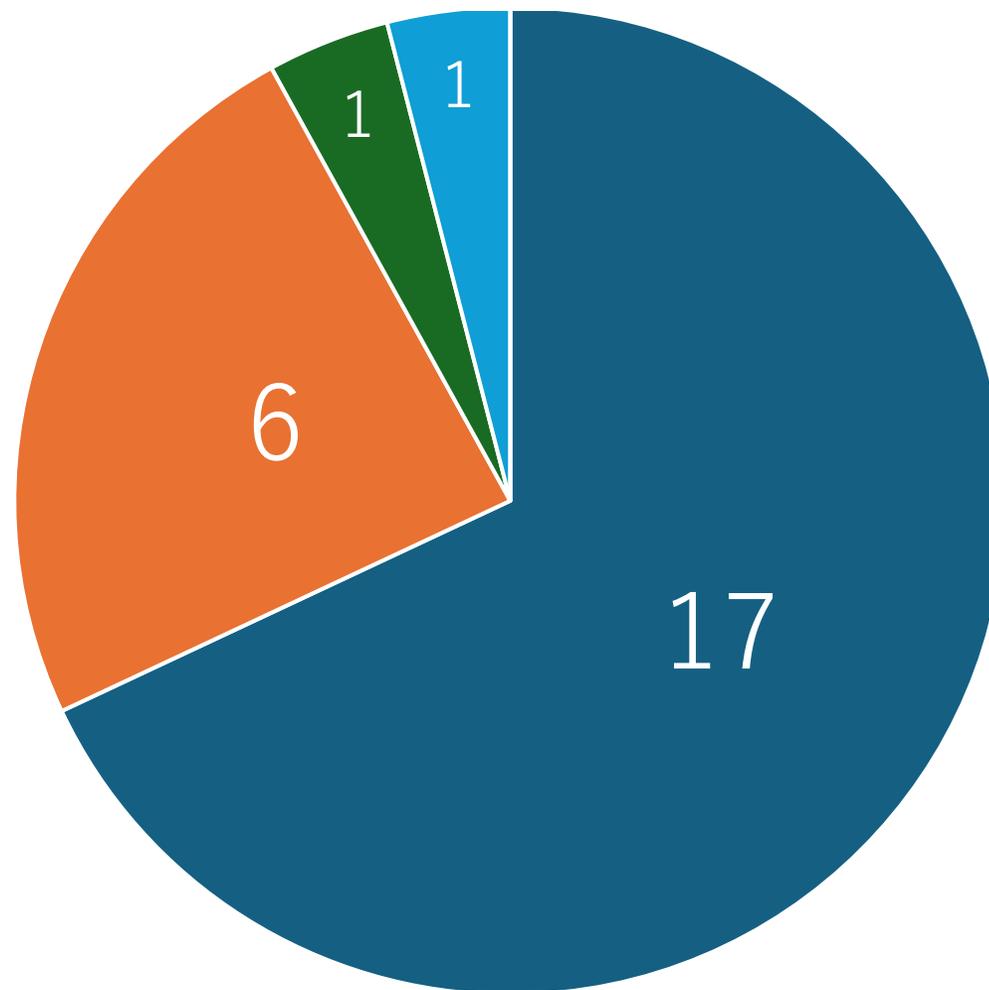
ハラールフード
について理解を
深められたか



■ とても深められた ■ 深められた ■ どちらともいえない ■ あまり深められなかった ■ まったく深められなかった

アンケート結果

どの程度、調理に参加し、関わられたか

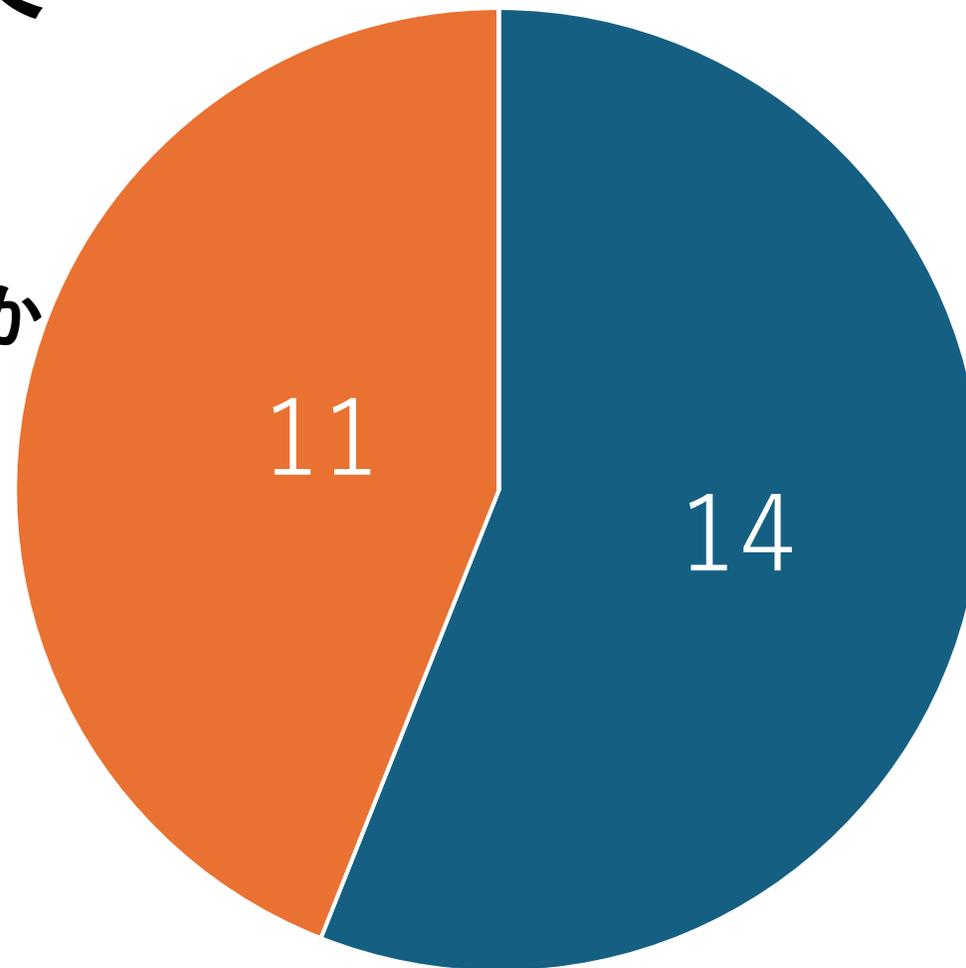


■ 積極的に参加できた ■ 参加できた ■ どちらともいえない ■ あまり参加できなかった ■ まったく参加できなかった

アンケート結果

か。

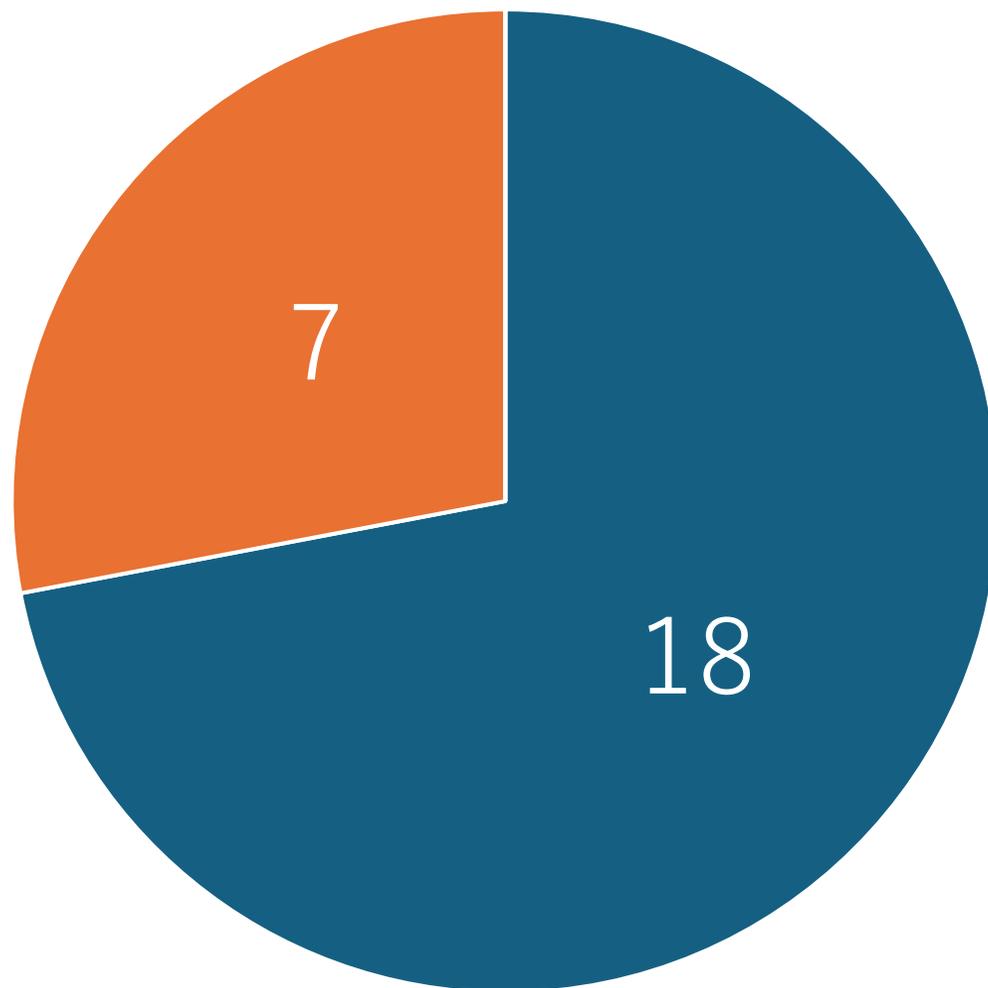
「友だち」として、
他の参加者と関われたか



■ とても関わることができた ■ 少し関わることができた ■ どちらともいえない ■ あまり関われなかった ■ まったく関われなかった

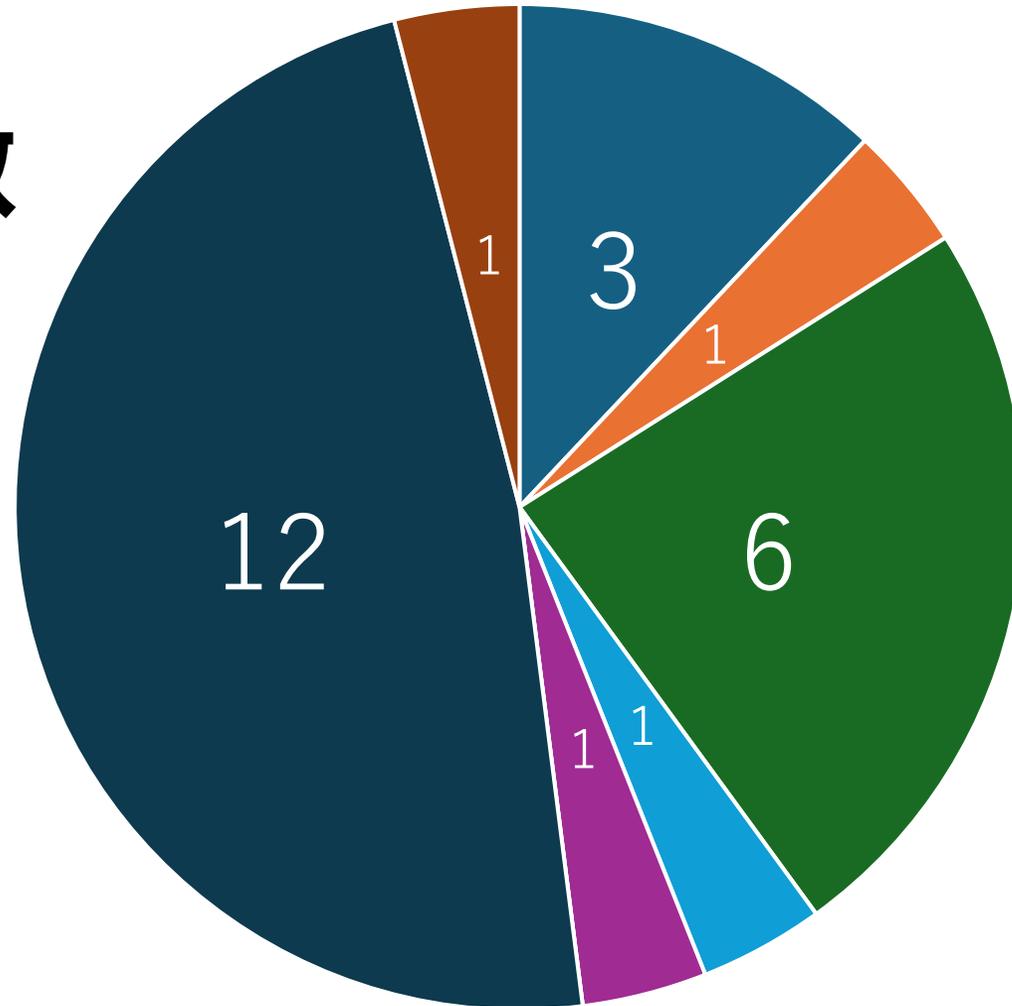
アンケート結果

今後の企画に参加したいか



■ ぜひ参加したい ■ 機会があれば参加したい ■ あまり参加したくない ■ 参加しない

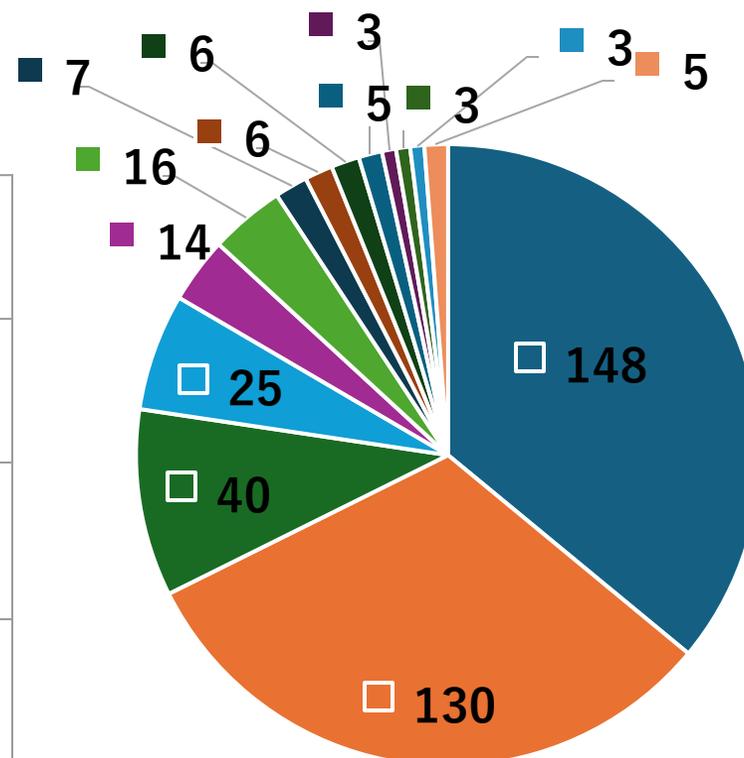
アンケート結果 信仰している宗教



■ イスラム教 ■ キリスト教 ■ 仏教 ■ 神道 ■ 仏教・神道 ■ その他 ■ 特定の宗教は信仰していない ■ 無記入

豊平区 ムスリムである外国人（推計） 国ごとの人数

項目	人数
豊平区 外国人住民総数	2,404人
ムスリムである可能性のある外国人（推計）	411人
割合（構成比）	約17.1%



- ネパール
- インドネシア
- イラン
- エジプト
- マレーシア
- バングラデシュ
- パキスタン
- ウズベキスタン
- キルギス
- トルコ
- サウジアラビア
- セネガル
- イラク
- その他（少数国合計）

助成金と予算の現実

1.助成金と予算の現実

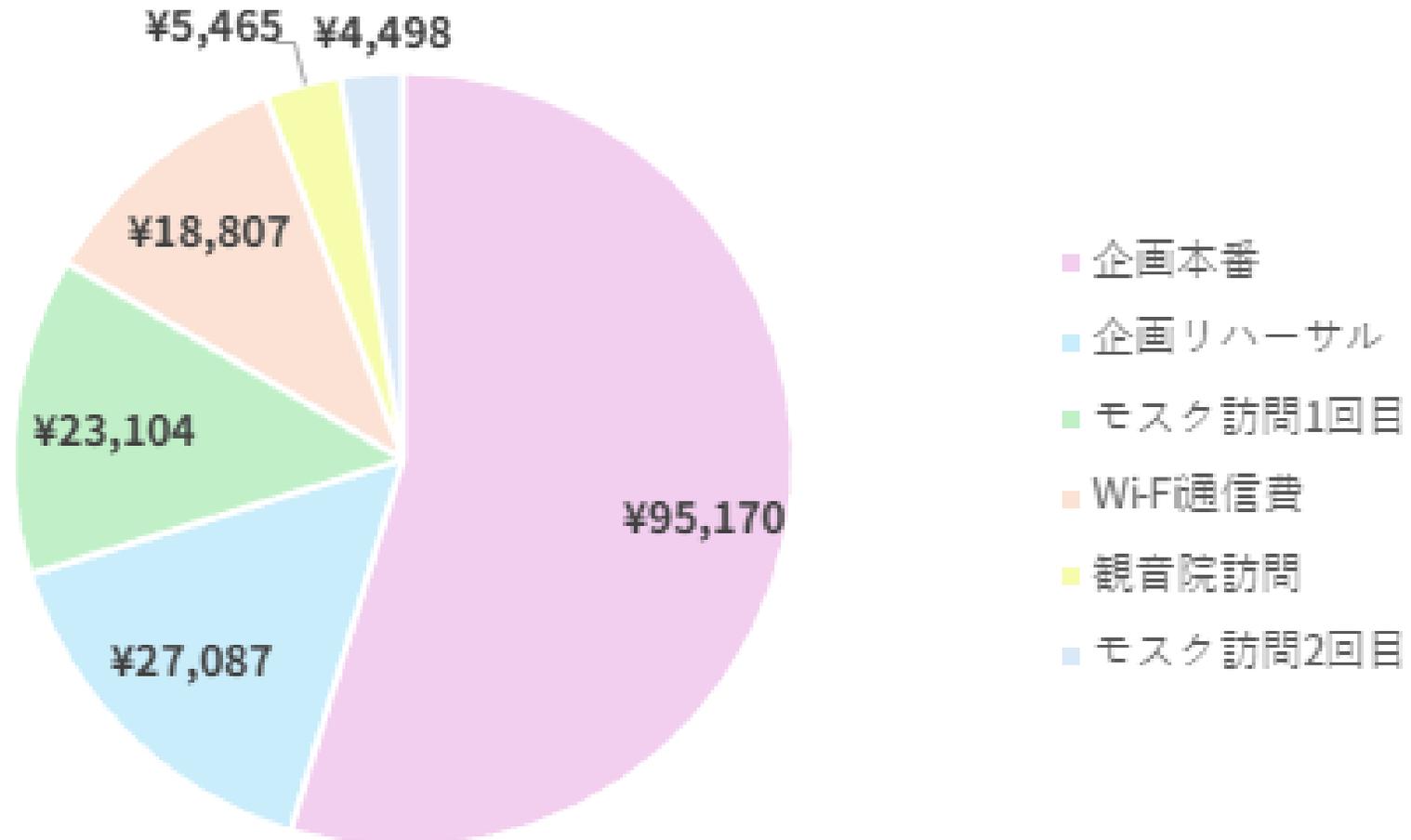
今回の助成金：20万円

経費の内訳

- ①モスク訪問NPO訪問（観音院）視察や学外調査
- ②ハラール調査、インタビュー調査費
- ③となりのムスリムのリハーサルや本番のイベント
- ④備品、文具など

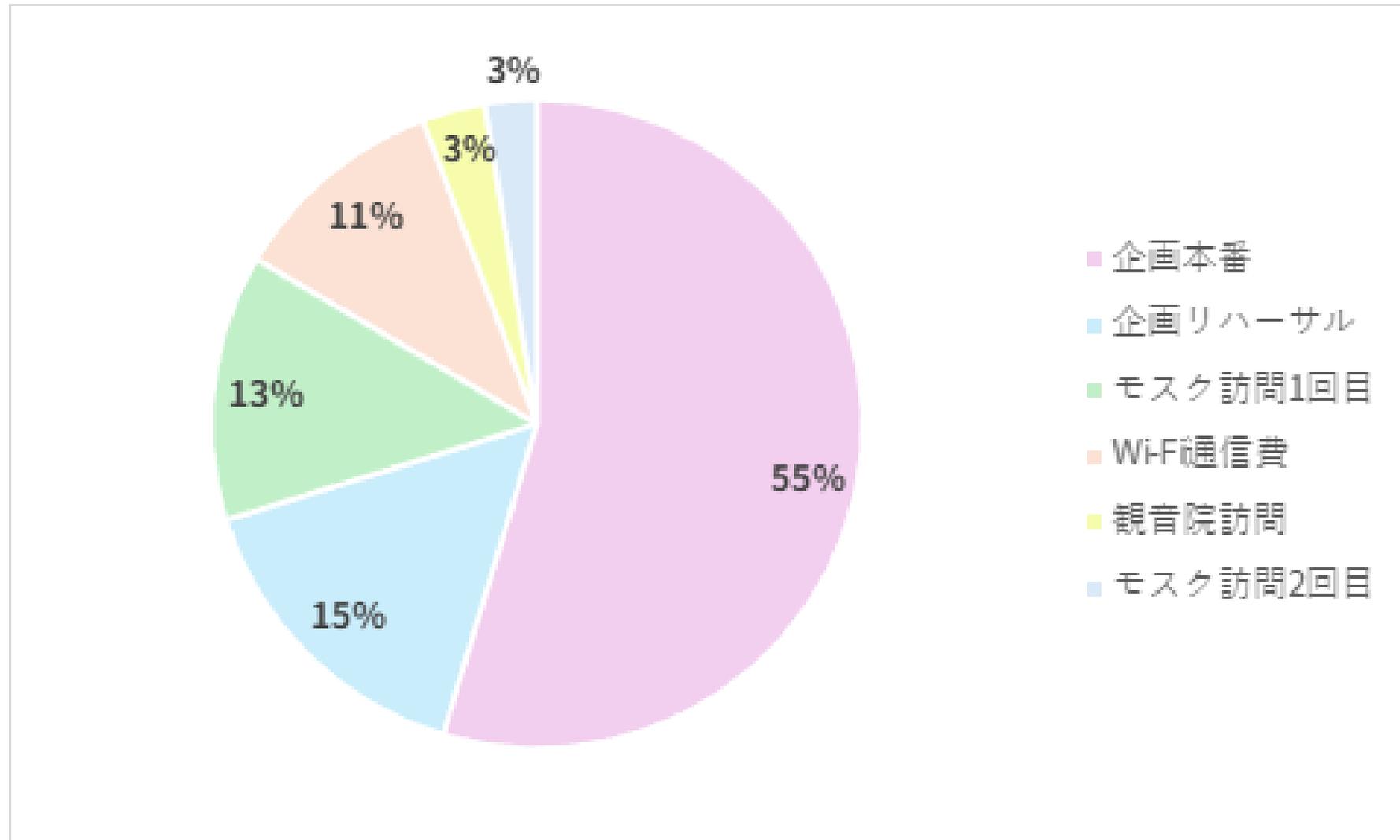
1,助成金と予算の現実

※11月末時点



1,助成金と予算の現実

※11月末時点



2.実施が難しかったもの

①予定していた学外調査は未実施

12月以降にイスラミックスクール訪問交流やその企画を予定していたが、次年度以降にまわすことに

②学内活動に制限

1月22日学内の合同発表会での「となりのムスリム」の食を通した周知活動を行う予定だがほとんど予算が残っていない。実施はするが工夫が必要になっている

3.費用と経験・学びのバランス

- ①さらに工夫すれば、費用を抑えることが出来る
- ②ただし、実際に現場で人に会ったり、話を聞いたりする経験は重要！
- ③直接的な経済収益が少なくても、参加者の学びや地域理解は「未来」の「資産」！
- ④交流で生まれた関係や情報（例：ハラールフード、地域活動への参加は、将来的に地域の経済活動や観光、コミュニティ支援につながる！

4. 今後に向けて

- ①活動する場合は、大学や公共施設、学校等の使用で会場費を抑える
- ②学外活動は必要経費として必ず予算化
- ③助成金の配分を工夫し、現地調査・地域交流の機会の創出、学内周知活動のバランスを確保したい。
- ④実質的な活動期間は、7月、10月～12月に限られ、テーマに関わる研究、準備期間、実施期間の確保が難しい。より柔軟な運用について提案したい

自分たちが感じたこと

<費用について>

- ①物品調達における「**予測**」の難しさ
- ②物価高騰による「**予算管理**」の難しさ
- ③**会計業務の管理体制**

今後取り組みたいこと

今後取り組みたいこと

- ①短時間の体験や研究だけでは宗教や文化に対する偏見や誤解を解消できない。より効果的なプログラムを考えたい。
- ②地域とのつながりを継続・強化。
地域とのイベントとタイアップしたり、地域のコミセンや学校で出前授業をする。
- ③ハラールに関する情報を「みえる」化する。ハラールフードマップやレストランの作成。

1.異文化理解の深め方

- ・ 短時間の体験だけでは宗教に対する偏見や誤解を解消できない
- ・ 研究例/継続案：参加者の理解度を追跡調査し、より効果的なワークショップやプログラム方法を考える

2.地域のつながりの強化

- ・ イベント後の交流が続かない場合がある
- ・ 研究例/継続案：ボランティア活動や豊平区の地域イベントについて調査し、となりのムスリムとタイアップできるか考える
- ・ 地域のコミュニティセンターや学校などで、出前授業をする

3.ハラールに関する情報を「見える」ようにする

- ・食や生活情報が限られており、アクセスが難しい
- ・研究例/継続案：ハラール食材・飲食店をさらに調査し、マップを作成し、地域の外国人・日本人に活用してもらおう

3.ハラールに関する情報を「見える」ようにする

- ・食や生活情報が限られており、アクセスが難しい
- ・研究例/継続案：ハラール食材・飲食店をさらに調査し、マップを作成し、地域の外国人・日本人に活用してもらおう

今後の調査項目

北海道におけるイスラム
の方々の活躍と社会参加

1. 主な就業分野 どのような仕事をしているのかインタビューをする

- ・中古車・自動車販売・ハラル食品、レストラン
- ・教育・研究；北海道大学などで研究・学問に従事
- ・サービス業・介護；日本語学校で学び、介護士として就業

2 日本社会での溶け込み（北海道のムスリムについて聞き取り調査する必要あり、下記は調査対象として考える項目）

- ・ 地域イベントや文化交流への参加
- ・ ボランティアやコミュニティ活動で地域貢献
- ・ 日本語学校での学びを通じた職業・社会スキル習得

3.まとめ；イスラムの方々の日本で活躍と社会参加

- ・「学ぶ・働く・地域参加」の三本柱で日本社会に関わっているのかどうか調査をしたい
- ・北海道ならではの就業形態や学習支援の実例に注目したい